

事業コード	H22-建-継-02		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・ダム・海岸班 (tel) 018-860-2514
路線名等	一級河川 新城川		担当課長名	河川砂防課長 秋元 良三
箇所名	秋田市飯島		担当者名	主幹(兼)班長 鏡 藤広
総合計画との関連	政策コード	11	政策名	生活基盤の整備
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	土砂災害防止施設、河川、海岸の整備

1. 事業の概要

事業期間	H03 ~ H40 (38年)		総事業費	56.0億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長 L=4,700m 計画高水流量 Q=380~410m ³ /s (1/10~1/15)						
事業の立案に至る背景	<p>新城川は島合川合流点下流部(島合川合流点~河口部)が中小河川改修事業として、平成2年度で改修済となっている。島合川合流点上流部には河積が小さく蛇行しており、近年の集中豪雨により毎年のように越水氾濫が発生し、家屋、耕地に甚大な被害を与えている。</p> <p>このような状況下、地域住民は治水対策を熱望しており早期の河川改修を実現し、住民を洪水から守り、民生の安定を図るものである。</p>						
事業目的	下流中小河川改修事業区間との整合を図り、流下能力不足区間の断面を拡大し、浸水被害の解消を図る。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	4,620,000	5,600,000	980,000			
	経費内訳	工事費	1,279,000	2,259,000	980,000	掘削、運搬土量の変更による増	
		用補費	2,391,000	2,391,000	0		
		その他	950,000	950,000	0		
	財源内訳	国庫補助	2,310,000	2,800,000	490,000		
		県債	2,079,000	2,520,000	441,000		
その他		0	0	0			
一般財源	231,000	280,000	49,000				
事業内容	築堤、掘削工、橋梁工等	築堤、掘削工、橋梁工等			詳細測量設計の結果、掘削、残土運搬土量が変更となり、また、残土運搬場所の変更により、増額となったため。		
事業の進捗状況	全体事業費	56.0億円					
	平成21年度末投資額	27.6億円					
	事業進捗率	49.0%					
事業推進上の課題	早期治水効果の発現とコスト縮減の検討。						
関連する計画等	「ふるさと秋田元気創造プラン」で5つの戦略を支える横断的な取組の(4)社会資本整備の推進の中で水害・土砂災害への対応力強化が位置付けられている。						
情勢の変化及び長期継続の理由	<p>沿川の住宅化が緩やかに進行しているものの大きな変化はない。</p> <p>国道7号、奥羽線の架替工事に伴う関係機関との調整、および用地交渉に長期間要してきたが、他事業投入(鉄道橋・道路橋緊急対策事業)により、広域事業(上流区間)との同時進行が可能となったことから、今後、河川改修の進捗スピードを早めることの出来る状況にある。</p>						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率					
	指標式	河川整備率 = 河川改修 / 要改修延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	44.9 %		データ等の出典	県河川砂防課		
	実績値 b	45 %					
達成率 b/a	100.2 %		把握の時期	平成22年 3 月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	蛇行が著しく狭小な河川であるため、近年の集中豪雨により毎年のように越水氾濫が発生し、家屋、耕地に甚大な被害を与えている。そのため、地域住民は河川改修による治水対策を強く望んでいる。	30点
緊 急 性	秋田市の一部住宅地近郊を流れる河川で、度々甚大な洪水被害を記録している。S62年8月の洪水では400戸を超える家屋浸水が発生している。近年では、平成18年の洪水により公共及び一般資産被害が発生するなど、毎年のように浸水被害が発生しているため、早急な対策が必要である。	13点
有 効 性	蛇行が著しい河川の河道改修及び河積拡大を実施することから、確実に治水効果の発現ができる。	15点
効 率 性	事業の費用便益比は3.05であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 72.7億円 ・総便益の現在価値 221.7億円 市道橋と農道橋の統合や排水樋管の集約等によりコスト縮減をはかり、事業の推進を図っている。	10点
熟 度	水害が毎年のように発生するため、地元から河川事業の推進を強く要望され、事業に対する理解を得られている。	20点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く、「必要性」「有効性」「効率性」等からの事業の重要性は高く評価できるため、継続して事業を実施し、早期完成が望まれる。	88点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H22-建-継-02)
箇所名 (秋田市飯島)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況					
	浸水戸数	50戸以上 49~10戸 10戸未満	10 7 3	10		
	浸水面積	60ha以上 59~10ha 10ha未満	10 7 3	10		
	重要な公共施設	3施設以上 2~1施設 無し	5 3 0	5		
	整備計画の策定					
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み 協議中であるが特段問題ない 策定に着手していないが予定がある 予定無し	5 3 1 0	5		
	計			30	30	
	緊急性	災害発生危険度				
		改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満 40~59% 60%以上	10 7 5	10	
		秋田県水防計画				
重要水防地域		評定基準区分A 評定基準区分B	5 3	3		
計			15	13		
有効性	河川整備の有効性					
	安全度	災害防止等効果が発現する 災害防止効果は現状と変わらない	7 0	7		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる 親水性は現状と変わらない	5 0	5		
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域 地域開発の計画がある 予定無し	3 1 0	3		
	計		15	15		
効率性	事業の投資効果					
	費用便益比 (B/C)	1.0以上 1.0未満	5 0	5		
	事業実施コストの縮減					
	該当項目数	3項目以上 2項目 1項目 無し	5 3 1 0	5		
	当初計画との比較					
	当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 0	0		
計		15	10			
熟度	地元との合意形成の状況					
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	5 3 1	5		
	市町村の参画	積極的に参画し要望書等の提出がある 参画している 参画していない	5 3 0	5		
	事業の進捗状況					
	進捗率	計画より進捗している 概ね進捗 (90~100%未満) 計画より遅れている (90%未満)	10 5 3	5		
	環境との調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	システムでの環境配慮事項が3事項以上 システムでの環境配慮事項が1~2事項 システムでの環境配慮事項がない	5 3 0	5	システム = 秋田県公共事業環境配慮システム	
計		25	20			
合計			100	88		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		